

第九十七回楽々俳句会(ちば)

令和五年七月十三日(木) くもり

吟行：千葉市役所 十二時集合 投句三句 五句選

句会場：新宿公民館 十三時集合

久 1 新庁舎眺めも添へて夏メニュー
久 2 朱夏の空麒麟の如くクレーン伸び
久 2 1 白シャツの湧き出る庁舎昼休み
久 1 2 油照風も通らぬ交差点
久 1 焼茄子やちりちり揺れる削り節
久 3 前を行く日傘の中の顔見たし
久 3 夏草や今は市役所登戸浦
久 1 愛犬の舌の長さで暑さ知る
久 1 夏つばめ海への道を一直線
久 半ドンの語感懐かし夏の午後

恵美子
成子
恵美子
武彦
洋子
粹歩
粹歩

静代 「で」は説明的 「や」

1 1 吟行を終えて飲む干すソーダ水
吟行し一気に飲むやソーダ水
1 紫陽花のきらめく雫藍深し
1 短夜やシルクロードを語り継ぐ
短夜やシルクロードの終りなく

宣子
育子

園子
信雄
弘子
今日子
利太郎

引戸で無くやで

4 新樹光扉を押せば新庁舎
3 青嵐盤上の駒静かなり
3 日盛りや街行く人に笑顔なし
1 青春や口に広がるさくらんぼ
1 初蟬の高音に驚く孫の顔
1 壁のなき部署に冷房ゆるやかに
1 ネイルして女将こじられる梅雨の宿
1 指タツチ素早く届く鯨二貫

今日子
利太郎
久登
武彦
恵美子

1 新庁舎造園の月中見草
1 曇る程沼すれすれに夏燕
1 心太つるんと沈む酔の海へ
下五を上五へ 酔の海へつるんと沈む心太

大将の素早く握る鯨二貫

利太郎
久登
成子

1 風来れば風にすぐ乗る夏帽子
1 雨粒は雨の塊男梅雨
塊だから「男」でなく「漢」が良い
武彦

1 新庁舎桧の香風涼し
1 蒲の穂や池の淀みに影ゆらす
1 朝採りの訳ありトマト味しむる
静代
ミチ子
今日子

白シャツやランチの机うす暗し
庭草の刈り残し青鬼燈
市役所に田のありしか蟻二匹
役所から日傘の出るは白や黒
白南風や打ちよせる波おだやかに
ぽきぽきと噴水の穂の乱れ散る
竹落葉舞う峠茶屋腰下す
眠りしか眠れざれしか熱帯夜
百姓の血や百歳の草を引く
七夕祭市役所広場憩いけり
展望台池の睡蓮赤黄白
窓若葉娘の机を譲られて
冷房はきき仕事してもうお昼来て
体内も気化する如き極暑かな
人形は目をあけて寝る夏の星
涼しさの昼餉の庁舎うす暗し
庭草の青鬼燈や刈残す
市役所の七階の庭蟻二匹
市役所へ出入りの日傘白や黒
穏やかに白南風の波打ち寄する
バサバサと・・・
腰下ろす竹落葉舞ふ峠茶屋
熟睡の体に成れず熱帯夜
百歳の根は百姓や草むしり
展望台俯瞰の池の彩睡蓮
新樹光・・・
冷房の庁舎より昼餉散り尻に

参加者 成子・洋子・恵美子・育子・ミチ子・園子・宣子
信雄・利太郎・粹歩・久登

欠席 武彦・豊隆・今日子・弘子・静代

予定 八月十日 (木) 吟行なし 兼題「海月」 活動センター 十時集合
句会後暑気払い(四季彩)十二時から 欠席の方は五日までに達さんへ

九月十四日(木) 吟行なし 兼題「朝顔」 活動センター 十時集合
十月十一日(水) 百回記念吟行

十一月三十分京葉線海浜幕張駅集合 美浜園吟行
十三時から松籟亭にて句会 十六時まで